

## 古高取を伝える会会報

### 直方の高取焼



目次	
古高取の魅力伝える	2
専門部会へのお誘い	4
活動のお知らせ	4
活動の四本柱	4
古高取の広場	5
活動の記録	6
なんでも掲示板	7
アンケート結果要約	8

新年あけましておめでとうございます。昨年、四月より本格的な活動を始め、会員の皆様には多大なるご支援を頂き誠にありがとうございました。

四月の「チューリップフェア」での呈茶・八月のイオンモール直方での「親子焼物教室」・九月の「直方の宝古高取展」・十一月の「古高取窯探訪紅葉ウォーキング」では、多くの皆様に古高取および当会を知って頂くことができました。

特に「直方の宝古高取展」では新しい展示に全国からお客様が訪れてくれる発信となりました。また、六月〜十二月まで市内十一の小学六年生を対象とした「焼物教室」では、子供達や先生方との交流も行い古高取の魅力を少しは伝えられたのではないかと思います。

本年も三月までに第二回目の「学習会」開催や次年度の計画作成など、まだまだやらなければならぬことが多くあります。

皆様には大変お忙しいこととは思いますが、各部会への参加や、活動についてのご提案・ご意見など引き続きご支援くださいますようお願い致します。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

## 『福智山麓の風光』

副会長 鷹取宗恵

谷こそ日本人にとってめでたき土地だった。村落も谷にできた。近世の城下町も谷か河口の低湿地にできた。様子が少し変わったのは、幕末から明治にかけて海港場ができてからである。西洋人たちは横浜・長崎・あるいは神戸などの後背地のある高燥な丘(山手)に異人館を営んだ。

さて話をもどるが田という土木構造を造成するには、谷がもっともいい。ゆるやかな傾斜面に、上から棚のように田を造成して下へくだり、ついには谷底にいたる。ただ、谷底の田はしばしば洪水で流される。家まで流される。そういった危険とのかねあい―二律背反の緊張―の上に日本社会ができて上がっている。

谷の国にあつて、ひとびとは谷川の水蒸気にまみれてくらししてきた

『この国のかたち』司馬遼太郎



福智山麓は、西向きに開かれた地形をなしている。つまり直方の街から見れば東山となる。この山麓の最も大きな溪谷は内ヶ磯谷である。

続いて深い谷は、鷹取城の大手門永満寺口から下る鉄砲町のある空方谷。そして上野に隣接した宅間窯跡のある宅間谷がそれぞれ東から西へ広がる。当然それぞれの谷に河川が走り、内ヶ磯から流れる福地川に収まる。つまり大きくいえば福地谷の風光なのである。

谷の水は農耕ばかりではなく、

焼物という技術も育てた。会員の小山氏は、巨大な登り窯には立地条件として、谷と河川を必要とする事を説く。つまり自然と技術の融合、水と風との調整が必要条件と諸事例をあげて力説されるのである。

人間は偶然といえる事柄を通して、人智は推測と情念を絡ませて、非連続を連続とする法則を見い出す。先人は後人にその技術を伝授し、そして改良を加えてゆく研鑽を惜しまなかった。

そして科学が必然としてその流れに併走する。

四〇〇年程前のこの谷は忙しかった。当然日の本も忙しかった。動乱から安定期に向かう流れである。信長・秀吉・家康の時代である。この戦国期の裏舞台の立役者として、黒田如水を外しては考えられない。黒田家の筑前移封に伴い、新しい国創りの施策がこの谷に及んできた。筑前六端城の一つ鷹取城の修復、そして城主の人事異動。その中、一六〇九年宅間窯開窯(八年間)から内ヶ磯へとより大きなプロジェクトを展開してゆ

くのである。

ちなみに、掘寺(明元寺)は、一五九六年開寺。隣寺の西福禅寺は一五八四年に宅間山中に造営となっている。もちろん大興山永満寺双林院は山麓の中央に位置しているのである。

そういつた訳で政治・宗教・文化・芸芸等が栄えた。つまり人・物・情報がこの谷に集まってきた。

槍をもって武門をあげる時代は終わった。黒田藩はここに新たな戦略を開始する。高取焼である。

この事に藩は威信をかけた。それは単に焼物というより、黒田家の意志であり発言でありそして外交であった。

天下分け目の関ヶ原の戦いは、三成が「場所」をとり、そして家康は「時」をとったといわれている。如水から始まる黒田三氏(如水・長政・忠之)の悲願と智略は、宅間・内ヶ磯、白旗と場は変わるが、時と人を選んだと考えても良いのではないか。ただ単に国焼きのレベルを越えて、常に中央を覗く体制の時流を読み、遂に遠州高取の完成に至った事である。そして

忠之をもって茶入「博多文琳」を二代將軍秀忠の上覧至った面目が、如実に物語っていると思われる。

さて、近世の統治は、山・谷から平野と移る。当然この山あいも例外ではない。一六一五年一國一城令によって鷹取城の破却。内ヶ磯窯も後に廃窯となり潮が引いた様に農耕者以外は、それぞれの流れに従って出ていった。

この谷に残ったのは、静寂と宗教のみとなった。しばらくして黒田家支藩として東蓮寺藩を立ち上げる。小河から大河へと軸を直方の街に移していくのである。

ご当地は西向き傾斜である。その事は夕日がきれいということになる。やがて冬至がやってくる。陽が最も南に傾くのである。四〇〇年前と何も変わっていない。今も昔・昔も今。



## 『無我夢中のこの一年』 副会長 永富セツ子



会が発足したばかりにもかかわらず、多くの活動を活発に展開してきました。そしてメディアにも大きく報じられて大いにアピールすることができました。また私の担当します六年生対象の焼物教室は市内十一校を廻り子供達と交流を深め、古高取の授業とお抹茶茶わん作りを行いました。

先生方により子供達に古高取に関するDVDを使つての事前授業がなされ、焼物教室の当日により詳しい高取焼の発掘品や陶片、写真パネルを使つての授業は子供達にとって大変な驚きでありました。また一生懸命に作品作りに没頭する子供達の姿に、この先きつと古高取のことを後世に伝承してい

つてくれると思いました。そして、そこでの小山亘さんの古高取の魅力についての講演を聞くことで我々スタッフも大変勉強になりました。

しかし古高取に関しての歴史は聞けば聞くほど奥が深いことに驚かされます。そこで会員の方々にも、もつと知識を深めるために学習部会などに大いに参加して古高取の魅力を伝えていってほしいと思います。そして次世代へ繋げて行くことがこの会の役目ではないでしょうか。

またこういった活動が直方の町を活気づけ、町づくりに貢献していくことになると思います。これからは古高取をブランド化して他団体と交流を深め、相乗効果をはかって行ければと思っております。

たとえば陶芸家、華道家、料理研究家などの方々とのコラボレーションをはかり、用途に応じた生活品の高取焼を展開して行くことで、愛着のある、生活にうるおいをもたらす器になったらいなと思えます。そして古高取が直方市民のご自慢になるよう努力と工夫を重ねていかなければならないし、

直方市民に愛されるようになってほしいと思います。

十一月に行つた「古高取窯跡探訪の紅葉ウォーキング」は大好評で毎年定例化にして行ければと考えています。

また会員の方々による焼物教室を定例化し釉薬掛けや窯出しまでの一貫の行程を行う事業ができれば、より一層の楽しみな作品作りになるのではないのでしょうか。

来年度も会員の方々と一緒に活動して行けたらと思っておりますので、どしどしご意見をお寄せ下さい。





子供焼物教室部会

部会長 永富 セツ子

〈主な活動〉

子供焼物教室

今年の主な活動は六年生対象の焼物で市内十一校をまわり古高取の授業とお抹茶茶わん製作に関わってきました。子供達のキラキラした目が忘れられません。生徒数は各学校によって異なりますが、関わるスタッフが足りずいつも他の部会より応援してもらっています。

来年は焼物教室を定例化し会員の方々と楽しく製作して行けたらと思っていますので、是非部会に入って古高取の魅力に接して子供の作品作りに関わっていただければと思います。我々スタッフの一員に加わってください。

学習部会

部会長 梅本 靖

〈主な活動〉

古高取に関する学習・講演会等

直方発祥の高取焼についてはまだまだ多くの方が特に地元直方においてよく知られてはいません。

江戸時代の初期に始まった高取焼でも最も古い、直方の古高取を会員の皆様とともに勉強し、知識を深めて郷土の誇りである古高取を理解していただくように、内ヶ磯窯跡からの出土品の説明会、古高取の作品にふれるツアー、その他勉強会などを行っていきます。

これらの催しにはぜひ大勢の会員の皆様のご参加をお待ちしています。また学習部会に入ってお手伝いをしていただける方もお待ちしております。よろしくお願います。

広報部会

部会長 石光 秀行

〈主な活動〉

会報、パンフレット、ホームページ

私たちは、「古高取を伝える会」の四本柱の一つである「古高取の魅力を発信」する為に、古高取のパンフレット作成、会報発行、及び既存のホームページの充実を重点を置き、広報部会を立ち上げました。

しかし、より魅力ある発信を行う為には、多くの皆様のご協力を必要としています。ホームページやデザイン、広報活動に興味のある方、アイデアのある方、一緒に作業しませんか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

活動のお知らせ

第二回「古高取の学習会」を行います

多数の会員の皆様のご参加をお願い致します。なお、終了後、今後の勉強会についての皆様のご意見等お伺いしたいと思います。

〈平成二十一年二月十五日(日) 14時〜16時〉

場所…直方市中央公民館 三階

第二学習室

内容…「内ヶ磯高取焼への道程」

講師…茶道裏千家講師

日隈 精二氏

連絡先…

0901477612878

活動の四本柱

- 一. 活動の拠点を創る
- 二. 古高取の知識を深める
- 三. 古高取の魅力を伝える
- 四. 次世代へつなげる

## 内ヶ磯窯跡の発掘調査

岸本 圭

古高取内ヶ磯窯跡の発掘調査は、福智山ダム建設が動き出した昭和五十四年度から始まった。第一・二次調査では窯本体が調査され、燃焼室十四・焚口一の十五室からなる連房式登窯の全容が明らかとなった。規模は全長四十六・五mという長大なものである。第三次調査では窯正面にある平坦地の発掘調査がなされ、工房と想定される遺構が確認されている。

ダム建設が本格的に動き出し、発掘調査が再開されたのは平成七年度のことである。第三次調査の際に確認された工房跡はごく部分的なものであったが、平成九年度までの発掘調査によってその全容が明らかとなった。掘立柱建物が数棟検出されたほかに、多数の粘土を貯蔵していたとみられる土坑が調査された。白色粘土がそのままの状態で堆積していたものもあるが、大部分は使い終わって窯道具や陶片が投げ込まれた状態であつ



た。中には祭祀でも行つたかのように、土坑の上面に陶器が置かれている事例もみられた。また、炭化物が詰まった方形の土坑が検出された。釉薬の原料につながるものかと思ひ分析を実施したところ、シャリンバイが大部分を占めることが判明している。

平成十年度から平成十一年度にかけては窯の東西に展開する物原部の発掘調査を実施した。物原からは十年という操業期間とは思われない程のおびただしい量の陶片や窯道具が出土した。堆積の最下層から出土した陶片は、最も初期の作風を示すものと考えられ、重

要な成果が得られたといえる。窯の周辺からは工房部から窯へと向かう通路も検出された。窯へは急斜面を登る必要があつたために道は九十九折となつており、一部に石垣を組んでいる状況が確認できた。また、窯の横からも粘土を貯蔵する土坑が検出されたが、その質は黄色つぼくパサパサした印象を受けるもので、工房の調査で確認されたものよりも悪い。おそらく窯道具の作成か、窯壁の補修用に使われたものとみられる。これらの調査によつて、窯本体のみならず工房跡、窯周辺の様相、物原の堆積状況が明らかとなり、窯を構成する要素がセットで判明したという点で大きく評価できるのである。

出土した遺物は約四千箱にも及ぶ。播鉢や大皿の破片やトチン等の窯道具が多くを占めるが、茶器をはじめとした重要な資料も少なくない。特に従来いわれてきた系統に見直しを迫るような資料も含まれる点は注目すべきである。しかし、例えば従来は上野焼としてとらえられていた資料が、今回の調査成果から高取焼と評価すべきものがあつたとしても、上野焼の調査が不十分な現在ではその結論

は慎重になるべきと考える。今後は高取の研究と同時に上野・唐津をはじめとした他の系統の陶器の研究を推進すべきであり、また高取の中でもまだ検討が不十分な上畑窯や千石窯の資料との比較検討もある。今回の調査成果はそうした陶器研究の深化の契機になればと期待するものであり、膨大な陶片を素材として多くの議論が交わされることを楽しみにしている。

窯跡は調査後に保存措置が講じられ、ダムの使命が終わるまでの間、湖底で静かに眠りについていく。





## 活動の記録

### ● 子供焼物教室

△平成二十年六月～十二月

場所：直方東小学校、直方西小学校、直方南小学校、直方北小学校、中泉小学校、下境小学校、新入小学校、植木小学校、感田小学校、福地小学校、上頓野小学校



六年生を対象にした焼物教室は、市内十一校の小学校を前期と後期に分けて実施しました。各校とも先生方がとても古高取に興味をもたれ子供達に事前授業がしっかりなされて、どの子どもともいい作品が完成しました。来年度も継続する予定になっていますが、各学校との日程調整やスタッフの確保など、いくつかの課題も残っています。このことについては更に会議を



重ねて行こうと思っています。スタッフのみなさん、担当の先生方お疲れさまでした。また子供達と楽しく交流して行きたいと思っています。

### ● 第一回 学習会

「内ヶ磯窯出土品について」



△平成二十年七月二十一日(祝)  
場所：直方市中央公民館 三階 第三学習室  
講師：田村悟氏

多数のご参加ありがとうございました。また皆様のご意見を参考に今後の学習会等に活かして行きたいと思えます。

### ● 夏休み二人で作る焼物教室



△平成二十年八月三十日(土)  
場所：イオンモール直方二階 イオンホール  
費用：無料(ただし、粘土代、釉薬代、焼成費実費として、一組(親子)で2500円を負担)

親子焼物教室は午前と午後の二回実施し、夏休みの一日を親子で楽しく製作していただきました。そして、この作品は、谷尾

美術館で行われた「古高取展」に展示させていただきました。また古高取展で焼物教室も行いました。経験のある方が多く、とてもいい作品が揃いました。なお、この催事は新聞各社が報じ「古高取を伝える会」をおおいにアピールすることができました。多数のご参加ありがとうございました。

### ● 直方の宝「古高取」展

△平成二十年九月三十日(火)  
～十月五日(日)～  
場所：直方谷尾美術館  
入場：無料

【ワークショップ】  
・焼物教室：十月四日(土) 材料費2000円  
・講演会：十月五日(日) 「内ヶ磯窯発掘よもやま話」 講師：岸本圭氏

直方発祥の高取焼を広く知って頂くために「直方の宝 古高取



展」を開催しました。入場者数は600人近く、福岡県内はもとより九州各県や東京など全国から多くの方が訪れてくれました。このことから、古高取の魅力の底力をあらためて感じました。

催しの柱となったものは、福岡県と直方市両教育委員会が行った発掘調査で掘り出された多くの陶片の中から、特に内ヶ磯窯の特徴的なものを六〇点あまり展示できたことです。また、展示数は一〇点ではありませんでしたが、出土陶片と類似するもの展示をはじめ実現しました。その他、直方市中央公民館郷土資料室に展示されている内ヶ磯窯の出土品と類似の伝世品紹介、技術の紹介、内ヶ磯窯に織部好みの茶陶を製作していた陶工達が京三条から訪れていたと考えられる内容をはじめパネル紹介しました。十月四日のワークショップで



は、直方で採集した材料で陶器を製作しました。最終日の五日は、平成七年と十一年の五年の発掘調査を担当された岸本圭氏の「発掘よもやま話」の講演で幕を閉じました。

最後になりましたが、当会が行って来た活動の記録である小学校の焼物教室のビデオと古高取がかげがえのない文化遺産であることを知らせる「直方の宝古高取」のDVDの週日上映は忘れてはなりません。このDVDは、当会の貴重な財産となりました。

● 古高取窯跡探訪  
「紅葉ウォークキング」

（平成二十年十一月十五日（土））  
場所…宅間窯跡（内ヶ磯窯跡）  
参加費…500円（保険料）  
昼食代実費として）

最初に宅間窯跡に向かい福智山麓を右に見ながら各人が自分の歩力で内ヶ磯窯跡へと足を進

めていきました。有終の美を誇っている様な紅葉の木々を愛でながら内ヶ磯の渓谷へ入ると一層の秋の深まりを見せる福智山ダム湖畔に到着。待っていたのは、会員の萩迫さんと女性スタッフの暖（温）かい団子汁、芋天ぷら、おにぎり。行つて、見て、聞いて、食べて、考え、想像する。五感に心地よい現地学習会でした。

参加者 五〇名



福智山ダムの湖畔で  
皆でいただいた団子汁

ご飯の足りない時やお夜食に昔から作られた団子汁は懐かしい九州の味である。具は秋から冬に美味しい大根、里芋、ゴボウ、ニンジン等の根菜類。更にはサツマイモ、カボチャ等を入れれば甘味も出て一層美味しくなる。薄味で仕立てて、具が煮えたら団子を入れる。団子は小麦粉が主になるが小麦粉3、米の粉1の割合で作ると又柔らかく口当たりもよい。最後に味噌で味をととのえ、実だく

なんでも掲示板

● 「高取焼誕生物語」  
劇団「やしやぶし」公演

（平成二十年八月二十八日（日））  
場所…こやのせ座  
入場…1000円

こやのせ座での今回の公演は、朝鮮の高い技術と、日本の美意識との融合が、数々の名品を生み出したであろう、という想いを軸に、八山を長とする朝鮮陶工たちの作陶への情熱と、望郷への念に揺れる姿を描いて感動を呼んだ。また、この舞台は、古高取の魅力の一端を観客に伝えたであろう。

さん”に仕上げる。作り手の心がいたたく人の体を芯まで温める思いやりの庶民の味と伝えましょう。ダム湖畔の紅葉を眺めながらの野外の熱い団子汁は一層美味しいものになりました。萩迫喜代子



● 臥瀧庵 「秋の窯開き」

（平成二十年十月三十日（木））  
十一月六日（木）  
場所…臥瀧庵（直方市知古三丁目六の三）



会員の能間瀧次さんが、自身の窯「臥瀧庵」で秋の窯開きを

行い、草木灰・炭火焼など、こだわりの作品数十点が焼きあげられました。

● 古高取を伝える  
ビデオ制作



会員の千羽登氏が、直方の宝「古高取」展のなかで、古高取の魅力と現状を伝えるビデオを製作してくれました。氏は、製作の過程で太宰府の山奥に収納されているパンケース4000箱という大量の出土品を目の当たりにして、あらためて古高取の重要性を説明されています。またそれらの貴重な資料を常時市民に公開できる施設がないことや目的意識をはっきりとさせたイベントの必要性を説明してくれました。また会員の西中俊雄氏は、郷土研究会そして高取焼開窯四〇〇年祭から引き継いだ三年間の焼物教室を40分のドキュメントにまとめてくれました。お忙しいなか、本当にありがとうございました。



● 歴史と文化の直方  
福智山麓二〇〇九年カレンダー

直方ライオンズクラブ発行のこのカレンダーには、宅間窯跡、内ヶ磯窯跡の写真が掲載されています。直方の歴史もよく分かり、是非、茶の間に飾ってほしいものです。

● 「へうげもの」ご存知ですか？

戦国時代、織田信長、豊臣秀吉に仕えた古田織部を主人公として描いた漫画に「へうげもの」と言う作品があります。この時代を舞台にした作品は合戦などの「武」を描いたものが多いが、本作は茶道や茶器、美術や建築など、戦国時代の「美（文化）」に重きを置いた作品である（ただし、武将たちの戦いや天下をめぐる権謀などもそれと並行して描かれている）。※一部インターネットから引用

単行本は講談社よりモーニングKCとして刊行。講談社刊「モーニング」に隔号にて連載中。その他、インターネットやメディアなどでも取り上げられています。古高取にも大きく関わりのあった古田織部を楽しく知ることのできる作品だと思います。機会がありましたら、一度読んでみては如何でしょうか？

〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

アンケート結果要約

Q. 今後、講演会やシンポジウムなどで、どのようなことを希望しますか？

・一度現地学習会を行っては如何  
(六十代 男性 会員、他)

・他の陶芸の地から見た「古高取の魅力」  
(四十代 男性 会員)

・古田織部についての講演会を希望  
(六十代 女性 会員)

・名物に関わる物語、高取焼の時代背景、上野焼との関係、高取焼の流通経路(商業と運輸)、茶道と高取焼との関係  
(六十代 男性 一般)

・高取八蔵、古田織部、小堀遠州の関わり方を深く聞きたい。黒田藩との交流も聞きたい。  
(六十代 男性 会員、他)

Q. 古高取を未来へ、今後どのようにつなげていけば良いと思いますか？

・生活の中に入れてゆける陶器作り  
(四十代 男性 会員)

・古高取の知識を深め、郷土の誇りであることを広めたい  
(六十代 男性 一般)

・大人が興味を持つようなイベント、例えばイオン直方などでPRイベントなど  
(六十代 男性 一般)

・焼物教室等を通して、子供たちには是非伝えていきたいと思えます。  
(六十代 女性 会員)

・バスハイクでの古高取の見学などは楽しいと思います。  
(六十代 男性 会員、他)

・展示保存する場所(建物)を確保することが最も重要であると思う。  
内ヶ磯窯の復元と資料館の建設  
(五十代 男性 会員、他)

Q. その他、古高取に関する質問や、感じたこと、イベント企画など

・「こんな器があつたらいいな」アンケート  
笠間市等との姉妹都市化  
(四十代 男性 会員)

・秋のいい季節に古高取写しの茶碗でお茶会などしたら如何  
(六十代 女性 会員)

・「百聞は一見にしかず」実際に美術館等に行ってみよう。  
(六十代 女性 会員)

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。  
皆様より頂戴した貴重なご意見・ご要望等は、今後の当会の活動等に活かして行けるよう努力致します。  
今後とも、どうぞご支援等くださいますよう宜しくお願い致します。

〈編集後記〉

会報NO.2ですが、仕事の関係等で大幅に発行が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

最近では便利になった反面、以前よりも忙しく時間の流れが速くなってしまったように錯覚します。

直方で古高取が焼かれていたおよそ四〇〇年前はどうだったのでしょうか？

当時、内ヶ磯窯で最先端の技術が使われ全国に発信していたことなども少しずつ明らかになってきていますが、当時の陶工・技術者達はどうかだったのか？ふっと思いました。この歴史遺産を再び世界に発信して行くことも当会の役割なのかも知れません。

「古高取通信」  
会報・NO2

〈発行〉  
古高取を伝える会

〈発行日〉  
平成二十一年一月十九日

〈現在の会員数〉  
正会員 108名  
賛助会員 83名

団体 8団体(11口)  
〈事務局〉  
〒八二一〇〇二六  
福岡県直方市津田町七十四

TEL 0949(23)1311